

自動車の革新的な技術進化に乗り遅れないために

現在、自動車業界は、「100年に1度の大変革期」と呼ばれる時代に直面していると言われています。この「大変革期」における重要な要素として、「SDV: Software Defined Vehicle (ソフトウェア・デファインド・ビークル)」が挙げられます。SDVと自動車の技術革新に伴い、今後の車載セキュリティの対策や、車載ネットワークの在り方も変化しています。多くの方から、この変化にどのように備えるべきかのイメージを掴みたいというお声を耳にします。Day1では、名古屋大学の高田教授をお招きし、SDVの動向についてお話しします。

SDVが生み出す価値とSDV実現に向けた課題

■ SDVが生み出す価値は？

ユーザー視点：購入後も車両の価値が上がる
パーソナライズできる

メーカー視点：継続的に収益が上がる

■ SDV実現に向けた課題は？

ビジネス面：購入してもらえるアプリの開発

余裕を持ったハードウェアの準備

技術面：ソフトウェア開発工数の爆発的増加

安全なソフトウェア更新（OTA）技術

SDV実現に向けた国内外の状況

■ 自動運転/SDVにおける新興OEM

テスラ：革新的なE/Eアーキテクチャ、OTAの活用
進んだ自動運転システム

中国OEM：上海モーターショー2023にて新しいコンセプト
の自動車を高い完成度で展示
進んだ自動運転システム

■ 自動車に対する価値観が変りつつある中国

居住空間/娯楽空間としての自動車の使い方を重視

■ 中国市場における日系OEMの動向

日系主要OEM（トヨタ/ホンダ/日産）は、中国でのシェア低下
を受け、中国の価値観に合致した中国向け車両を投入

■ HUAWEIのビジネスモデル

Intel型、さらにはAndroid（Google）型のビジネスモデルを
構築中

Open SDV Initiativeの活動

・Open SDV Initiativeの目標と活動の経緯

・Open SDV API仕様、現時点の完成度

（バージョン：202503a）

半導体メーカーの取り組み

ルネサスエレクトロニクス社

・自動車用 SoC (System on Chip) R-Car製品

・SDV開発向けプラットフォームRoX(R Car Open Access)

■ 本日の登壇者 ■



名古屋大学
未来社会創造機構
モビリティ社会研究所・教授
高田 広章 氏



株式会社リョーサン
デバイス第一事業本部
技術支援部 第一課
上滝 聡

SDVの動向と実現に向けた課題

SDV (Software Defined Vehicle) とは？

用語の元来の意味

- ▶ ソフトウェアで振舞い／機能／価値が定義される自動車
- この流れは、約45年前にエンジン制御にマイコンの適用が開始されて以降着実に進んできたもの

もう少し具体化した定義（やや狭義）

- ▶ ソフトウェアのOTAによる追加・更新により、販売後に振舞い／機能を拡張・変更できる自動車
- ▶ ソフトウェアの追加・更新がIVIのみに留まるものは除く

（多様なSDVの形）

※「モビリティ(DX戦略)」より

Hiroaki Takada

SDVとは？

出所：投影資料より一部抜粋

[他記事、ウェビナ情報はこちら](#)



エンジニアによりそうマガジンサイト